

第十四番 小松谷正林寺の御詠歌（千歳調）

(小松谷の御詠歌)

松 濤 基 作曲

♩ = 60

○ × × ○ ○ × × ○ ○ × × ○
〔斉唱〕
ち とせふ る こまつのも とを す ーみ か

○ × × ○ ○ × ○ × ○ × ○ × × ○
に 一て む りようじぶつ_{ぶつ}の む 一—かえ— エ 一—

The final staff of music shows a deceleration (rit.) leading to a double bar line. The notation includes a half note, a quarter note, and a half note, with a fermata over the last note.

○ × × ○ ○ × ○ × ○ × × ○ ⊗ ⊗
を ぞ ま — — つ

第十四番 山城の国 小松谷 正林寺

ち
千とせふる 小松のもとを すみかにて 無量寿仏の 迎へをぞ待つ
(法然上人御作)

小松谷正林寺は、信仰心の篤い平重盛たいらのしげもりの小松殿と言われる別邸でしたが、後に九条くじょう関白兼実公かんぱくかねざねこうの山荘となりました。法然上人は兼実公が上人のために建てられた小松谷の別邸での生活を大変喜ばれ、ご高齢でもありましたのでこの地を終焉しゅうえんの地と思い、お歌いになったものであります。

大意 千年もの長い年月を経た老松がそびえている小松谷の地に住まいしております。年を重ねていますので、ここを最期の地だと思い、お念仏を唱えながら、命限りない無量寿と呼ぶ阿弥陀ほとけのお迎えをお待ちいたしましょう。

ポイント注意

- 4拍子のリズムを強調します。
- 「むりょうじゅぶつの」は、歯切れよく、「むかええー」以下はのびやかに。
- 最後の鈴鉦同時打ちはゆっくり。